

科目名:看護学概論

単位時間:1単位(30時間) 1学年

科目目標: 看護の概念を学び、看護の本質、位置づけと役割を理解できる。

学 習 目 標	時間数 (回数)	学 習 内 容	備 考
<p>1 看護の概念、看護の定義、目的を理解できる。</p> <p>2 看護技術の概念を理解できる。</p> <p>3 看護の対象を理解できる。</p> <p>4 健康の概念を明らかにし、健康段階と健康の連続性を理解できる。</p> <p>5 看護活動の場と看護の役割を理解できる。</p> <p>6 看護の動向を理解できる。</p>	<p>28 (14回)</p> <p>試験2H</p>	<p>1)看護の定義 (1) 看護とは何か ①ICN、日本看護協会の主な看護の定義・目的・機能 ②保健師助産師看護師法 ③ナイチンゲールの看護論 ④ヘンダーソンの看護論</p> <p>2) 看護の変遷 (1) 古代・中世の看護 (2) 近代看護の確立、アメリカにおける看護の発展 (3) 日本における近代看護</p> <p>1) 看護技術とは 2) 看護技術の特徴と構造</p> <p>1) 看護の対象としての人間 (1) 統合体としての人間 (2) 人間と欲求 (3) 人間と環境 (4) ライフサイクル</p> <p>2) 患者と家族</p> <p>1) 人間にとっての健康 (1) 健康の捉え方 (2) 健康に影響する要因</p> <p>2) 基本的権利としての健康 (1) プライマリー・ヘルスケア (2) ヘルスプロモーション (3) 健康を守る法律・健康施策</p> <p>3) 生活と健康 (1) 生活習慣と健康</p> <p>4) 健康の段階と連続性</p> <p>1) 看護活動の場と看護の役割 (1) 地域、医療施設、保健福祉施設における看護活動 (2) 看護職間、多職種間の連携と協働 (3) チーム医療と継続看護</p> <p>1) 専門職としての看護 2) 看護の国際協力 3) 医療・看護の動向</p>	

科目名:看護の理論

単位時間:1単位(15時間) 2学年

科目目標: 看護の理論を理解し、看護に対する考えを深めることができる。

学 習 目 標	時間数 (回数)	学 習 内 容	備 考
1 看護理論の意義と分類 を理解できる。	14 (7回)	1) 看護理論とは (1) 理論の目的と範囲 (2) 看護理論の発展 2) 看護理論を学ぶ意義 3) 看護理論の分類 (1) 看護全領域にわたる理論:広範囲理論 ①環境理論 ②ニード ③相互作用理論 ④適応理論 ⑤ケアリング理論 (2) 看護現象や看護実践を表す理論:中範囲理論 ①対象理解・関係構築理論 ②コンフォート理論 (3) 看護実践各段階に焦点を当てた理論:小範囲理論 ①実践に際しての原理・原則 ②目標達成のための行動指針	
2 主な看護理論の概要を 理解できる。		1) 主な看護理論 (1) ナイチンゲール (2) ヘンダーソン (3) ペプロウ (4) トラベルビー (5) ロイ (6) オレム (7) ベナー	
	試験1H		レポート提出

科目名 : 看護の基本となる技術 I (人間関係成立の技術)

単位時間: 1単位 (30時間) 1学年

科目目標: 1 看護におけるコミュニケーションの意義と方法を理解できる。
2 看護倫理について理解し看護者としての責任を自覚できる。

学習目標	時間数 (回数)	学習内容	備考
1 看護技術の特徴と習得方法を理解できる	4 (2回)	1) 看護技術の特徴 (1) 看護技術の概念 (2) 看護技術の応用 (3) 看護技術の活用 校内実習と技術練習	< 校内実習 > (4H) 「実習室 オリエンテーション含」
2 看護におけるコミュニケーションの意義と方法を理解できる。	16 (8回)	1) コミュニケーションの構造とプロセス (1) コミュニケーションの意義と目的 (2) コミュニケーションの構成要素と成立要因 2) 対人関係プロセスとしてのコミュニケーション (アサーション含む) 3) 看護におけるケアリングとコミュニケーション 4) コミュニケーションのプロセスに影響する因子	
3 看護における人間関係成立のためのコミュニケーション技術を理解できる。		1) 看護における人間関係成立のためのコミュニケーション (1) 接近的コミュニケーションの原理 (2) 接近的行動と非接近的行動 2) 医療現場のコミュニケーション (1) 報告 (2) 連携 (3) 調整 (4) 交渉 (5) 確認 3) 患者とのコミュニケーション (1) 基本的態度 (2) コミュニケーション技法の活用 (3) 受容・共感的理解 (4) インフォームドコンセントと看護師の役割 (5) ペイシエントアドボカシーとしての活動 4) コミュニケーションに障害がある人の看護 (1) コミュニケーション障害の影響 (2) コミュニケーション手段の把握 (3) 看護援助	
4 看護場面に応じた基礎的なコミュニケーション技術を習得できる。		1) 臨地実習における事例 (1) 実習の承諾を得るためのコミュニケーション (2) 看護場面に応じたコミュニケーション (3) チーム医療におけるコミュニケーション	< 演習 > (6H) 「臨地実習における コミュニケーション」
5 看護者としての職業倫理に基づき、自覚と責任を持つ事の必要性を理解できる。	8 (4回)	1) 倫理とは 2) 看護における倫理 (1) 専門職に求められる倫理 (2) 法的側面 (3) 患者の権利 3) 看護倫理 (1) 倫理原則 (2) 看護者の倫理綱領 (3) 実践場面での倫理的ジレンマと意思決定	< 演習 > (2H) 「倫理的意思決定」
	試験2H		

科目名:看護の基本となる技術Ⅱ(対象把握の技術)

単位時間:1単位(30時間) 1学年

科目目標:1 対象の健康状態を評価する意義と方法を理解できる。
2 看護における記録・報告の意義と方法を理解できる。

学 習 目 標	時間数 (回数)	学 習 内 容	備 考
1 対象の健康状態を評価する意義と方法を理解できる。	4 (2回)	1) 観察 (1) 看護における観察とは (2) 観察の目的・方法 ヘルスアセスメントとは フィジカルアセスメントとは フィジカルイグザミネーションとは (3) 観察の手段 ①問診 ②視診 ③触診 ④聴診 ⑤打診 ⑥身体計測	
2 基本的なフィジカルイグザミネーションを実施でき、正常な身体状況を理解できる。	22 (11回)	1) フィジカルアセスメントの実際 (1) 看護におけるフィジカルアセスメント (2) フィジカルアセスメントに共通する技術 ①フィジカルアセスメントの準備 ②フィジカルアセスメントの4つの基本技術 ・視診 ・触診 ・聴診 ・打診 (3) バイタルサイン ①測定方法 ②変動因子 (4) 系統別アセスメント ①呼吸器系のアセスメント ②循環器系のアセスメント ③腹部のアセスメント ④神経系のアセスメント	<校内実習> (4H) 「バイタルサイン測定」 <校内実習> (4H) 「フィジカルアセスメント(呼吸系・循環器系)」
3 バイタルサインの測定及び記録・報告ができる。			<校内実習> (4H) 「フィジカルアセスメント(腹部・事例)」
4 看護における記録・報告の意義と方法を理解できる。	2 (1回)	1) 記録 (1) 記録とは (2) 記録の目的 (3) 記録の方法・種類 SOAP フローシート 2) 報告	
	試験2H		

科目名:看護の基本となる技術Ⅲ(医療・療養環境を整える技術)

単位時間:1単位(30時間) 1学年

科目目標:安全・安楽な医療・療養環境の意義と方法を理解し、対象の環境を整えるための技術を習得できる。

学 習 目 標	時間数 (回数)	学 習 内 容	備 考
1 安全・安楽を阻害する因子と安らぎのある療養生活への援助方法が理解できる。	12 (6回)	1) 医療における安全・安楽 2) 安全・安楽な療養環境 (1) 施設・病院・病室 (2) 生活環境の意義と看護師の役割 3) 病床における安楽の構成因子と阻害因子 (1) プライバシーの保護と療養環境 (2) 換気と臭気 (3) 室温と湿度 (4) 騒音 (5) 採光と照明 (6) 色彩 (7) 床とベッド	<校内実習> (2H) 「基本ベットの作成」 <校内実習> (4H) 「臥床患者のシーツ交換」「環境整備」
2 対象の安楽を確保するための援助技術を習得できる。	4 (2回)	1) 安楽を確保するための援助 (1) 身体的援助 ①安楽な体位 ②体位の保持 (2) 精神的援助 ①タッチング ②リラクゼーション ③アロマセラピー	<校内実習> (2H) 「安楽な体位」
3 医療における安全の意義と方法が理解できる。	12 (6回)	1) 医療における安全の重要性 2) 安全を守るための看護師の役割 3) 医療安全対策の基本 4) 看護業務でおこる事故と防止策 5) 院内感染防止対策 (1) 標準予防策(スタンダードプリコーション) (2) 感染経路別予防策 (3) 洗浄・消毒・滅菌 (4) 無菌操作 (5) 感染性廃棄物の取り扱い	<校内実習> (4H) 「スタンダードプリコーション」 「無菌操作」
		試験2H	

科目名:看護の基本となる技術Ⅳ(看護過程)

単位時間:1単位(30時間) 1学年

科目目標: 看護過程の意義と科学的思考プロセスを理解できる。

学 習 目 標	時間数 (回数)	学 習 内 容	備 考
<p>1 看護を系統的・組織的に行うための科学的思考のプロセスが理解できる</p> <p>2 事例を通して看護過程が展開できる</p>	<p>28 (14回)</p> <p>試験2H</p>	<p>1) 看護過程の概念 (1) 看護過程とは (2) 看護過程の基盤となる考え方 ①問題解決過程 ②クリティカルシンキング ③倫理的配慮 ④リフレクション</p> <p>2) ゴードンの機能的健康パターン</p> <p>3) NANDA-I看護診断概要</p> <p>4) 看護過程の実際 (1) 看護過程の5つの構成要素 ①アセスメントの考え方 ②看護診断の概念 ③成果の設定と計画立案 ④実施 ⑤評価の意義</p> <p>5) POSと看護記録</p> <p>1) 事例展開 (1) アセスメント (2) 看護診断 (3) 看護計画 (4) 実施 (5) 評価</p>	<p><演習> (10H)</p>

科目名:生活を整える技術 I (食事・排泄)

単位時間:1単位(30時間) 1学年

科目目標:1 健康と栄養の関連について理解し栄養状態を整えるための基本的援助技術を習得できる。
2 排泄の意義を理解し、基本的援助技術を習得できる。

学 習 目 標	時間数 (回数)	学 習 内 容	備 考
1 食事と栄養の基礎知識が理解できる。	14 (7回)	1) 食事の意義 2) 健康な食生活と食事摂取基準 3) 食事援助の目的	
2 食事と栄養のアセスメントが理解できる。		1) 食事と栄養のアセスメント (1) 栄養状態 (2) 水分・電解質のバランス (3) 食欲 (4) 咀嚼・嚥下能力 (5) 食に対する認識と行動	
3 栄養状態を整えるための援助技術が習得できる。		1) 栄養状態を整えるための援助方法 (1) 医療施設で提供される食事 (2) 対象に応じた栄養摂取 (3) 食事環境の整備と食事援助、口腔ケア (4) 非経口栄養法 ①経管栄養・経腸栄養 ②経静脈栄養(中心静脈栄養)	<校内実習> (4H) 「臥床患者の食事介助」 「口腔ケア」
4 排泄に必要な基礎知識が理解できる。	14 (7回)	1) 排泄の意義 2) 自然な排泄 3) 排尿・排便の異常 (1) 尿失禁、排尿困難 (2) 便秘、下痢	
5 排泄のアセスメントが理解できる。		1) 排尿・排便のアセスメント (1) 量、回数、性状 (2) 腹部症状 (3) 排泄動作 (4) 排泄への影響因子	
6 排泄に必要な援助技術が習得できる。		1) 排泄の基本的援助 (1) 排泄環境の整備 (2) 排泄用具の種類と選択 (3) トイレ・ポータブルトイレの援助方法 (4) 床上排泄の援助方法 (5) 排泄物の取り扱い 2) 排尿障害時の援助 (1) 導尿 3) 排便障害時の援助 (1) 腹部マッサージ、温罨法、摘便、浣腸	<校内実習> (4H) 「便器・尿器を用いた排泄援助」 「グリセリン浣腸」
	試験2H		

科目名:生活を整える技術Ⅱ(活動休息・清潔)

単位時間:1単位(30時間) 1学年

科目目標:1 活動・休息の意義を理解し、基本的援助技術を習得できる。
2 対象の清潔の意義と衣生活を理解し、基本的援助技術を習得できる。

学 習 目 標	時間数 (回数)	学 習 内 容	備 考
1 健康生活と活動・休息との関連が理解できる。	10 (5回)	1) 活動 (1) 活動と運動の意義 (2) 体位の種類と身体への影響 (3) 同一体位の有害性 ①局所(筋委縮、関節拘縮、褥瘡) ②全身(呼吸器・循環器・心理的变化) (4) 活動・運動のアセスメント ①日常生活動作(ADL) (5) ボディメカニクス (6) 活動の援助 2) 休息 (1) 休息と睡眠の意義 (2) 休息と睡眠に関するアセスメント ①生活リズム ②睡眠の状態 (3)休息・睡眠を促す援助方法	
2 活動の援助技術が習得できる。		3) 活動の基本的援助 (1) 床上移動 (2) 体位変換 (3) 車椅子・ストレッチャーでの移乗・移送	<校内実習> (2H) 「体位変換(ボディメカニクス)」 <校内実習> (4H) 「移乗・移送(ストレッチャー・車椅子)」
3 健康生活と清潔・衣生活との関連が理解できる。	18 (9回)	1) 清潔の意義 2) 衣生活の意義	<校内実習> (4H) 「足浴・爪切り」
4 清潔・衣生活のアセスメントができる。		1) 全身状態・局所状態 2) 皮膚・粘膜 3) 援助方法の選択	「臥床患者の寝衣交換」
5 清潔を整えるための援助技術が習得できる。		1) 身体各部の清潔の目的と援助方法 (1) 皮膚の清潔を保つ援助 ①入浴・シャワー浴 ②全身清拭 ③洗髪 ④手浴・足浴 ⑤整容 ⑥寝衣交換	<校内実習> (4H) 「清拭」 <校内実習> (4H) 「洗髪」
	試験2H		

科目名:診療に伴う技術(治療に伴う技術)

単位時間:1単位(30時間) 2学年

科目目標: 診療の補助技術である与薬・診察・検査等の看護について基礎的知識、技術を習得できる。

学 習 目 標	時間数 (回数)	学 習 内 容	備 考
<p>1 薬物療法の意義と与薬の援助方法を理解し、安全・確実に与薬するための基本技術が習得できる。</p>	<p>24 (12回)</p>	<p>1) 薬物療法の基礎知識 (1) 薬物とは (2) 薬物の取り扱い、薬物の体内動態と薬効 (3) 与薬の指示と情報 (4) 正しい与薬 (5) 薬物の保管 (6) 薬物療法における看護師の役割 2) 与薬の援助方法 (1) 経口与薬法 (2) 直腸内与薬法 (3) 塗布・塗擦法 (4) 点眼・点鼻 (5) 注射法 ①皮内注射 ②皮下注射 ③筋肉内注射 ④静脈内注射 ⑤点滴静脈内注射 ⑥中心静脈カテーテル法 3) 輸血療法と看護 (1) 輸血の目的 (2) 輸血療法の種類と方法 (3) 輸血実施上の注意事項</p>	<p><校内実習> (2H) 「経口与薬 直腸内与薬」</p> <p><校内実習> (4H) 「筋肉内注射」</p> <p><校内実習> (4H) 「点滴静脈内注射」</p> <p><校内実習> (2H) 「技術チェック: 注射法」</p>
<p>2 診察と検査を受ける対象とその看護が理解できる。</p>	<p>4 (2回)</p>	<p>1) 診察と検査を受ける患者の心理 2) 診察と検査時の看護師の役割 3) 検査の種類とその看護 (1) 検体検査(尿・便・喀痰・血液・穿刺液) (2) 生体検査 ①心電図検査(心電計) ②超音波検査 ③X線検査 ④CT検査 ⑤MRI ⑥核医学検査 ⑦内視鏡検査</p>	
		<p>試験2H</p>	

科目目標: 健康障害を持つ対象を理解し、主要症状・治療処置等の状態に応じた基礎的な知識や技術を統合して看護技術を適用する基礎を習得できる。

学 習 目 標	時間数	学 習 内 容	備 考
1 健康障害をもつ対象の代表的な症状を理解できる。	18 (9回)	1) 主要症状のある患者の看護 (1) 症状と随伴症状 (2) 症状の観察とアセスメント (3) 援助の実際	
2 健康障害をもつ対象の状態に応じた援助技術を習得できる。		2) 発熱 (1) 発熱時の症状と機序 (2) 発熱時の観察とアセスメント ①熱型 ②検査データ ③随伴症状 (3) 発熱を緩和する援助 ①安静 ②覆法 ③薬剤の使用 ・解熱薬、抗炎症薬 3) 呼吸困難 (1) 呼吸困難とは (2) 呼吸の観察とアセスメント ①呼吸状態 ②検査データ ③随伴症状 (3) 呼吸困難を緩和する援助 ①酸素の供給 ・酸素ボンベの取り扱いと酸素マスク法 ②換気の促進 ・体位の工夫 ・呼吸法 ③吸入 ・噴霧吸入 ④薬剤の使用 ・気管支拡張薬、去痰薬 ⑤一時的吸引 ・口鼻腔吸引(デモンストレーション) 4) 浮腫 (1) 浮腫とは (2) 浮腫状態の観察とアセスメント ①浮腫の部位と程度 ②検査データ ③水分出納バランス ④随伴症状 (3) 浮腫を緩和する援助 ①循環の促進 ・体位の工夫 ②薬剤の使用 ・利尿薬、アミノ酸製剤 ③食事療法	<校内実習> (2H) 「酸素ボンベの取り扱い方・酸素吸入」 「吸入法」 <校内実習> (4H) 「事例を通して症状と援助の実際を学ぶ」 (活用する既習の看護技術:SpO ₂ の測定 バイタルサイン フィジカルアセスメント 安楽な体位)
3 救急法が理解できる。	2 (1回)	1) 包帯法 (1) 包帯の目的 (2) 巻き方の基本(環行帯、折転帯、亀甲帯、三角巾)	上級救命講習の前に授業で実施する
	8 (4回)	2) 救急法:上級救命講習受講 (1) 気道確保 (2) 人工呼吸 (3) 心臓マッサージ (4) AED (5) 止血法 (6) 外傷手当 包帯法	上級救命講習
	試験2H		